

2014年11月9日 子ども祝福礼拝

説教「祈りの手」

出エジプト記 17章 8-16節

【引き出す神さま】

水から引き出されたモーセ。パロの娘は、私が水から引き出したと言いましたが、実際に引き出したのは神さま。モーセを用いて、イスラエルをエジプトから引き出したのも神さま。神さまは、私たちを引き出されます。それぞれが抱えている悩みの中から、罪の中から、不和と不一致の中から。

【よい民だからではなく】

神さまはイスラエルがよい民だから引き出したのでありません。神さまはあわれみの神さま。私たちが罪をおかすほど、たがいに傷つけ合うほど、私たちを放っておけない方。

イスラエルは、エジプトから救い出されたにもかかわらず、食べ物がない、水がない、とつぶやきました。けれども神さまは、こどもじみた、大人になれないイスラエルを、あわれまないではいられなかったのです。

【神さまへの信頼】

そこへアマレクが現れます。好戦的な遊牧民、戦争のプロです。イスラエルは戦った経験のない素人集団。モーセは、急ごしらえの軍隊を作り、自分は丘の頂に立ちます。これは普通ではぜったいに勝ち目のない戦い。モーセは、そのことをよくわかっていました。

けれども、こんなことは初めてではありませんでした。出エジプトのときから、戦われたのは神さま。イスラエルは神さまを信頼しただけでした。だから、この戦いでもモーセは神さまを信頼したのです。

私たちのなすべきことも、神さまを信頼すること。私たちがあわれんで、何も惜しむことをなさない神さまを信頼すること。私たちの神さまは、御子を十字架に架けてくださった神。私たちがよい者だからではありません。愛し抜くことができない、たがいを覆い抜くことができない私たちだから、です。

【手を上げるモーセ】

モーセが手を上げたのは、一つには、これがユダヤの祈りの姿勢だから。もう一つには、神さまの旗印を高く掲げるためでした。イスラエルは、この旗印を仰ぎ見て戦いました。神さまが自分たちをあわれんでくださって、自分たちとともに戦ってくださることを忘れないようにしたのです。祈りにしても、旗印にしても、大切なのは、神さまへの信頼です。神さまを信頼するから祈り、その旗印を掲げるのです。そうして、神さまの御手の中に自分を委ねたのでした。

私たちも祈りつつ困難と戦い、戦いつつ祈ります。私たちを、それぞれの困難の中から引き出してくださる神さまを信頼してそうするのです。

【ひとりではなく仲間と】

モーセの手が重くなったとき、アロンとフルがモーセの手を支えました。モーセが祈ることを助け、モーセが神さまの旗印を高く掲げることを支えたのです。

私たちにも兄弟姉妹が与えられています。兄弟姉妹の助けを求める率直さは、とても大切なことです。弱さを認めることができない人は、結局は、孤立し、疲れて、判断を誤ることになるのです。すべての人は、何かは弱さをもっています。それを補い合い、覆い合うために、神さまは仲間を与えてくださっているのです。

【代々にわたって戦われる神さま】

この後も、アマレクはイスラエルを悩ませ続けます。アマレクは、神の民イスラエルを滅ぼそうと続けます。けれども神さまは、代々にわたってアマレクと戦われると約束され、その通りになさいました。

それは、イスラエルがよい民であったからではありません。神さまがあわれまれたからです。神さまは、イスラエルがご自分から切り離されるのを、何もせずみでおられることができません。イスラエルをそんな悲しみの中から引き出さずにはいられないのです。私たちもまた、同じ神さまの、同じあわれみに中に抱かれています。これは不思議なこと。けれども、ほんとうのことです。